

第3回（1月） 会議録（主な意見）

○会員の確保、組織の広がりのためにどんな工夫があればよいか、これからの議論の柱の一つになると思う。若い人が関わってくれることで、同時に組織体制の強化にもなる。若い層の広がり確保とともに、組織体制をどう強めていくかが大切である。

○親子参加型のイベントや学校と連携した活動等により、子供をきっかけとして子育て世代が参加しやすい活動を工夫することで、婦人団体の活動に興味を持ってもらうことが、青壮年層の加入促進のために大切である。

○防災、環境、健康といった「より良い地域づくり」につながる身近で関心の高いテーマを取り上げることが、住民の学びや活動への参加のきっかけになる。防災については、地域の防災に女性の視点を組み込むために、防災意識の高揚や女性防災士資格の取得等に取り組んでいる。

○PTAのOBをどのように組織に取り込んでいくのが課題だと思う。一方で、PTA活動に疲れてしまっている方もいるし、団体の役員が重複している現状もある。新堅町公民館も青壮年部を作ろうとしているが、その辺の仕組みをどのように作っていくかが難しい。

○それぞれの団体活動において、どんな努力をしていて、どんな魅力を発信しているかということを出し合う中で、共通の課題が見出せるのではないか。その課題を解決・改善するためにどんな手続きがあるのかという議論ができるといい。

○自分から手をあげる人は少ないので、園とか小学校でリーダーを育てていかないといけない。うちの園もリーダーを少しずつ育てて、小学校につなげている。

○負担感とか徒労感を学習成果に転化することが必要である。疲れたというだけで終わってしまえば、二度とやりたくないということになってしまう。それをどうやって、成長できるとか新しい世界に出会えるという思いに変えるのが大切である。

○PTAのOBを役員に迎えるということは今後考えられると思う。役員が単年度で変わることが多く、新しい事業を行ったり改革したりすることが難しい。そういうときに、少しお手すきになった、比較的若いOBの方に入ってもらうことは有効である。日本PTAもそういう役員を出している。今後そういう流れは強くなっていくと思う。

○シンポジウムをやったことで横の繋がりができて、それぞれ会員数は少ないが、何かやる時には手伝うぞという連携ができたのはよかった。横の繋がりができて、連携がスムーズにいくようになった。やはり、横の連携をとるキーマンとなるような人材がいてくれたおかげだと思っている。

○新しい団体は出てきているが、問題はその団体に、もう少し社会教育的な、公共的な目的をどうやって加えるかということ。あとは、団体間で連携を深めてもっと大きなことをやっていければいいということだと思う。

○団体の規模、目的等問わず地域で頑張っている団体が集まることは、有意義だが、県レベルではなく、地域でやらなくてはいけない。地域の実情は全然違うので、どのレベルで協議会など連携の母体をどうするか、どのレベルで声かけてやるかという話だと思う。